

私たち民医連は、無差別・平等の医療と福祉の実現をめざす組織です

### ストップ! 4病院再編・移転 10.28県民大集会

2023年  
日時▶10月28日(土) 14:00~集会  
場所▶元綴治町公園 14:40デモ行進

【呼びかけ人】  
小泉 潤 (医師・精神障害者のくらしと医療を考える山南ネットワーク代表)  
島田福男 (東北労災病院を守る会・前青葉区連合町内会長協議会会長)  
新里宏二 (弁護士・ともに市政をつくる仙台市民の会会長)

連絡先/新里・鈴木法律事務所 TEL 022-263-3191

# みやぎ民医連

発行所 宮城県民主医療機関連合会  
仙台市青葉区木町通1-8-18  
〒980-0801 田村ビル5F  
TEL 022-265-2601  
FAX 022-263-8266  
e-mail:dai@miyagi-min.com  
発行人 坂田 匠  
1日・15日 月2回発行 1部50円

## 第1回

# 県連感染対策学習交流会を開催



9月7日、坂総合病院2階教育ステーションで、第1回県連感染対策学習交流会が行われました。各事業所と法人の感染対策担当者、県連常任理事等オンラインも含め44人が参加し、感染に関する学習会や情報交換、実践交流を行いました。

初めに、坂総合病院の高橋洋副院長より、「国内のCOVID-19感染症診療における今後の方向性」のテーマで講演をいただきました。

新型コロナウイルス感染症は、日本国内では、第8波で感染が広がったものの、人口当たりの死亡者数では依然として抑えられていること。5類移行に伴って行政の医療支援が縮小し、医療費の一部負担が発生すること等に触れました。また、ワクチンの有効性、コロナウイルスとの共生・共存の視点での生活上の留意点など、具体的にお話しいただきました。



高橋洋副院長

講演に対する質疑で

は、治療薬の高過ぎる薬価、そもそも厳しい急性期病床の事情に踏み込んだ意見交換が行われました。

### 多職種連携で効果的な感染対策を実施

長町病院 感染制御実践看護師 佐藤 千春

学習会では、他職種との連携も強調されました。看護師は、医師や薬剤師と密接に協力しながら院内感染を防止するために行動する必要があります。連携を取ることでより効果

果的な感染対策を実施できると感じました。学習会を通じて、感染制御実践看護師としてのスキルと知識の向上が期待できます。この学習会で学んだことを日常業務に活かし、患者さんと職員を感染の危険から守るよう現場につなげるのが重要です。感染制御実践看護師として、根拠に基づいた感染対策を実現するために、学習会への定期的な参加や、継続的な学習が必要であると思われま

入れの工夫」について発表しました。2019年、新型コロナウイルス感染症が世界的に流行してから3年。この間、様々な感染対策が行われてきました。はじめは手探りだった感染対策も、コロナウイルスの理解が進むにつれ、ガイドラインの改訂とともに見直され、今に至っています。各事業所で限られた資源を駆使して行われてきた感染対策が、何えども必死であったのだと思ひ返されました。

実践交流では、「長町病院における発熱外来受け

最後に、私が感染制御実践看護師資格を取得



講演を聴く参加者

し、その数か月後、新型コロナウイルス感染症が流行しました。ガイドラインも頻繁に変更され、最新の情報を把握し、それに基づいた適切な対策を実施する必要があります。

した。情報が溢れている中、情報の不確実性や混乱は苦勞の要因であり正確な情報の伝達が求められました。その苦勞も今では良き経験として思い出されます。



多々良哲さん

9月30日の県連理事会で、市民連合@みやぎ事務局長の多々良哲さんを講師に、宮城県議選に向けての学習会を行いました。講演の概要をお伝えします。

8月の仙台市議選では、自民はマイナス3議席、立民はマイナス1議席と、重鎮やベテランが落選、当選者も得票を減らすなど苦戦しました。維新は全区で5議席を獲得しました。ただし、全体としては、共産党が6議席を守るなど、野党は踏ん張りしました。4病院問題など住民に寄り添ったことが評価につながったと思います。

「河北新報」は、仙台市議選の投票率が過去最低の34.3%となったことについて、議会活動の「見える化」が足りず関心が低調、市選挙管理委員会のPRも不十分と指摘しました。4病院再編反対や学校給食無償化など、各党の主張が似通って争点がかかりづらく、その分、マイナカードを

巡るトラブルなど国政レベルの状況を反映した選挙となったと報じました。こうした仙台市議選の傾向は県議選にも引き継がれます。現岸田政権へ

わってきます。投票率低下については、市民連合@みやぎとして、宮城県選挙管理委員会に選挙促進のPRを強めるよう申し入れま

です。富谷・黒川選挙区、塩釜選挙区、多賀城・七ヶ浜選挙区、宮城選挙区(利府・松島)、石巻・牡鹿選挙区です。

「NO」を突きつけた選挙としましょう。4病院再編・移転に反対する地域住民・当事者の運動、女川原発再稼働反対を貫く県民運動に依拠して選挙にのぞみましょう。

## 暴走する

## 村井県政を止めよう



の評価など、国政レベルの政党評価が問われる選挙でもあります。いつ解散総選挙になるか分かりませんが、今回の県議選は、国政にも関

た。県議選の選挙区は定数が見直され、4選挙区で2議席増、2議席減となった。次の国政選挙を考えると宮城4区が焦点

の候補者をできるだけ一本化して選挙協力を、仙台市の5つの選挙区を含め、3〜7人区では、現有議席を確保し更に増やすことを目指します。

基本政策の一致に基づく、市民と立憲野党の協力・共闘を進めます。県民を置き去りにして暴走する村井県政に「STOP P!」をかけ、大増税、大軍拡、改憲まで狙って闇に突き進む岸田政権に

得できない方が新聞に投書されていた。わが法人の訪問介護事業も、毎月予算乖離が大きく赤字続きである。働き手もいないが利用者確保にも苦慮している。▼来年度は介護報酬の改定の年。自治体や国に引き上げの要望を

## 健康手帳

酷暑の中、エアコンを切るタイミングが分からず、ほぼ24時間フル回転。我が家は4台。電気代の心配はあるが、我慢できない暑さで、今年の暑さは異常である。身体に伝える。近所のスーパーでサンマが並んでいた。新物と書かれているが細くて小さいサンマでかわいそうに思いつい、大好きなサンマは今年も食べられそうにない。▼先日某新聞に「訪問介護220か所休廃止」の見出しあり。社協の調査らしい。訪問介護事業所の減少率が高い。宮城は25%で8件と高い。「住み慣れた地域で最後まで暮らせるように」という理念を掲げながら現実を厳しく、社協では人口減に伴う利用者の減少、高齢化したヘルパーの退職なども重なり訪問介護は赤字というケースも多い。支援が必要な高齢者が自宅で生活を続けられない例が増えていると書かれている。身近にある多賀城市社協も2019年に訪問介護事業が廃止となり、急なサービス停止に納得できない方が新聞に投書されていた。わが法人の訪問介護事業も、毎月予算乖離が大きく赤字続きである。働き手もいないが利用者確保にも苦慮している。▼来年度は介護報酬の改定の年。自治体や国に引き上げの要望をしていこう。



# 介護報酬改定2024へ向けて 介護署名を進めよう

厚生福祉会専務 大内 誠

毎年県連で5千筆を目標に行ってきた介護署名は、昨年初めて5千筆を超え、全国的にも過去最高の42万筆を集めることができた。外部への学習会で改悪内容を知らせ、県内の介護事業所実態調査にも取り組み、県議や自治体に声を伝える活動など、幅広く運動を上げてきました。多くの署名が集まった背景には、国が進める制度改悪の動きがありま



県議へ実態調査の報告

「要介護1、2のデイ・ヘルパーの総合事業化」「ケアプラン有料化」などを始め、国がかつてない大改悪を狙う中、多く「環境問題と私」は、県連職員他、県連環境問題考える会の企画に参加した方に寄稿をお願いしています。今回は、東北医科薬科大学医学部5年の藤岡篤司さんの寄稿です。

## 環境問題と私 第20回

東北医科薬科大学医学部5年 藤岡 篤司

「環境問題と私」は、県連職員他、県連環境問題考える会の企画に参加した方に寄稿をお願いしています。今回は、東北医科薬科大学医学部5年の藤岡篤司さんの寄稿です。

2024年の報酬改定は医療・介護・障がい福祉トリプル改定となり、個別の課題ではなく社会保障政策をどう拡充させていくのかという観点で、一体的な運動として相互に位置づけて取り

## 健康保険証

### なくさないで!



組んでいくことが重要であり、介護報酬改悪をスト

各職場で学習を進め、利用者・家族の皆さんをはじめ多くの方に声をかけていきたいと思います。

「署名しただけでは作って使えない。健康保険証とは一緒にしたくない」と話しました。

でも大変な時代です。いろんな業務も大変で悩んでいますが、もうちょっと頑張ろうと思える笑顔でした。

9月25日の昼、一番町平和ビル前で「現行の保険証を残してください」街頭署名宣伝行動を行いました。

しかし、健康保険証の廃止は、要介護高齢者などマイナカード取得や、利用・管理が困難な方に重大な影響をもたらす危険性があります。

共同組織月間も始まっています。地域の人たちと一緒に、私たちの健康保険証の廃止に反対の声をあげ、署名を大いに広げていきましょう。

「お詫く」 10月1日号お休みのクイズに締切日他の掲載がありました。お詫くいたします。



【問題】上の絵と下の絵では7つのマチガイがあります！どこでしょう？ (作・野上和彦)



クイズの解答は事業所名、氏名、職種を記し県連事務局に送ってください。メールは不可。ファックスは可。正解者に抽選で5人に図書カードを進呈いたします。余白に日頃考えている事などを書き添えて下さい。「声」の欄に掲載させていただきます。応募資格は臨時・パート含む県連職員。締切11月15日。当日消印有効。発表12月1日号。9月1日回答え①右側の人物の前髪。②テント内右端の人の左袖。③同じく右から2番目の人の左目。④テント右側の屋根。⑤テーブルの脚の幅。⑥センターのボールがテーブルを突き抜ける位置。⑦三月月の向き。応募総数16件。当選者 鈴木桂子/長町病院、八柳沙英/つばき薬局、多賀城店、佐竹弘美/長町病院、中山かおり/ケアステーションつくし、大沼晴与/田子のまち。(敬称省略)



平和ビル前での署名活動

無用な混乱やトラブルを招きかねません。県連国民運動部が県連事業所に行った調査でも、「顔

東京から視聴覚障害のある方が相談に来ました。感染対策上、マスクをつけていたため、お話を伺うことができませんでした。

## 声

連載「環境問題と私」私の好きな憲法は何条？への寄稿を募集いたします。宮城民医連メールアドレスまでお寄せください。 e-mail: dai@miyagi-min.com

吉野由美子

ながまち

支援センター

保健師 芳賀明子

南光台地域包括